

北海道医療大学歯学部同窓会北海道支部連合会
学術講演会のご案内（ハイブリッド）

「接着性材料を臨床に活かす」



講師 伊藤 修一先生
(北海道医療大学口腔機能修復・再建学系
高度先進保存学分野 教授)

日時・場所

3月28日(土) 午後4時～(3時間の予定)

会場 北海道自治労会館 第4会議室(4F)
札幌市北区北6条西7丁目5-3

受講方法 ■会場受講 (先着35名)

■Web(Zoom ウェビナーを使用)※基本的にカメラやマイクは必要ありません。

■締切 3月13日(金)

■参加費 無料 ■参加資格 令和7年度会員納入者

お申込み URL <https://forms.gle/QmnS63EhfHuCF4eS6>

お問合せ先 TEL (011)788-4509 FAX (011)788-4809

E-mail info@iryodai-dorengo.com



参加方法 □会場 □Web (Zoom ウェビナー) (どちらかに□を入れてください)

お名前 : _____ (ふりがな) _____ 卒業期 () 期

TEL (_____) - _____ 勤務先名 : _____

受講用メールアドレス _____
(Zoom を視聴するアドレス) このアドレスをメール登録します

資料受け取り方法 ダウンロード 郵送 (どちらかに□を入れてください)

～質問がございましたらご記入ください～

<抄録>

歯科診療において、歯科材料を上手く使いこなすことは、予後を計る上で重要な位置を占めている。中でも接着性歯科用材料の進歩は、目覚ましく、近年においては、歯科材料に機能性を持たせた、いわゆる「バイオアクティブ材料」など様々な製品が上市されている。しかしながら、数多くの製品をすべて理解し、選択し、使いこなす事は至難の業である。また、近年、歯冠修復において CAD/CAM 冠の保険診療への導入やセラミック修復などの普及に伴い、大きな変化を迎えており、これらの治療は、審美性の回復には優れているものの、広範囲の歯質の切削を伴うため、生活歯の修復においては、躊躇されることも少なくない。このような状況に対して歯科材料を“うまく使いこなす”ことが重要になってくる。また、近年、歯内療法学の分野において、MTA の開発やマイクロスコープ、Ni-Ti ファイルの普及に伴い、変革の時期を迎えており、それに伴って、歯内療法関連材料の開発も進んでいる。このような材料を“うまく使いこなす”ことが、予後に大きく関わってくることになると考える。

そこで、本講演では、症例を交えながら接着性歯科用材料の現状について解説させていただき、日頃の先生方の診療の一助となれば幸いである。

略歴

平成 9 年 3 月	北海道医療大学歯学部卒業
平成 13 年 3 月	北海道医療大学大学院歯学研究科博士課程 修了
平成 14 年 12 月	Medical college of Georgia, Department of Oral biology (Prof.Pashley) 研究員
平成 16 年 8 月	北海道医療大学歯学部歯科保存学第二講座助手
平成 17 年 4 月	北海道医療大学歯学部歯科保存学第二講座講師
平成 23 年 8 月	北海道医療大学歯学部口腔機能修復・再建学系う蝕制御治療学分野准教授
平成 30 年 5 月	北海道医療大学歯学部総合教育学系歯学教育開発学分野教授
令和 5 年 4 月	北海道医療大学歯学部口腔機能修復・再建学系高度先進保存学分野教授